

夢はもたない

2022.7.12

「夢」という言葉が好きである。この漢字も好きである。なにせ二人の子どもの名前に、夢の字を入れたくらいである。

野田中学校に来て1年と3か月余りになるが、生徒を前にして一度も「夢をもとう」と言ったことがない。夢をもつことの大切さを説く校長先生は多いだろう。だが、今の私は夢の話をしていない。それは、なぜか。安易に夢をもとうと言える時代ではないからである。無責任なことになるからである。夢の話というのは、話している方も聞いている方も心地よい。互いに「そうだろう」と納得できる。この心地よさが危険である。

この場合の夢というのは、職業とか仕事のことである。夢といっても人によって、その捉え方は様々である。職業や仕事ではない夢は大いにもった方がよいと考える。

AIに仕事を奪われ、そのうち仕事なくなる職業が半数以上だと言われて数年が経過した。2028年にAIに仕事を奪われて人間の仕事なくなる職業ランキングを見てみる。1位が電車運転士である。今の中学生に、「電車運転士になるのが夢です」という生徒がいたとする。「それはいいね。夢に向かってがんばれ」などと軽々しく言えない時代になったという話である。

3位には路線バス運転手がある。どんどん自動運転の車が開発されている状況を見ると、納得するしかない。近い将来、我々は運転手がないバスに乗るのである。正直、いやである。6位には郵便外務員がある。同じく6位に学校事務員がある。学校から事務の先生がいなくなるということか。想像がつかない。9位には銀行窓口係がある。これは想像がつく。

逆に、これからも生き残っていく仕事ランキングを見てみる。1位が精神科医である。合点がいく。3位には中学校教員がある。安心した。AIやロボットでは代替できないということである。

生徒に、夢をもとうとは言わない。しかし、先が見通せない予測不能な時代を生きていかなければならない若者に伝えたいことはある。それは、適応力、順応力、はね返す力、しなやかさである。これを中学生にわかるように話したいのだが、まだ構想ができ上がっていない。

これからの時代は、今まで以上に、柔軟さを身につけないとやっていけないのではないか。変化に対応できる力である。変革の波についていける力である。大事なものは、柔らかい思考力のような気がする。AIにはできない表現力も大切である。

夢をもとうとは言わないが、生徒に「どんな人になりたいですか」あるいは、「どんな生き方をしたいですか」という話をするときがある。職業や仕事という枠を超えたテーマである。AIなどの影響も受けない。中学生のうちから考えるべき重要な内容であると考え。このようなことを夢と捉えれば、やはり「夢をもとう」となるのかもしれない。